

NEC Generative AI Appliance Server ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠に您所れ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システム ROM の機能に関する注意事項
- 3) iLO 6 の機能に関する注意事項
- 4) OS に関する注意事項
- 5) 全般の機能に関わる注意事項

1) はじめに

本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下のWebサイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NECサポートポータル内検索」より、以下のIDで検索してください。

ID: 3170102985

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/
エクスプレス通報サービス(HTTPS)/エクスプレス通報サービス(MG)に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト <https://jpn.nec.com/esmsm/>

NEC サポートポータル <https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

Starter Pack について

本製品で使用するStarter Packは、以下のWebサイトに掲載されています。

Webサイトに掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-013.01を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NECサポートポータル内検索」より、「S8.10-013.01」を検索してください。

本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

2) システム ROM の機能に関する注意事項

Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、「Memory Initialization - Start」のメッセージで、まれにPOST 停止することがあります。本現象発生時は、以下の手順で復旧してください。

- (1) 本体前面の電源スイッチ(または、iLOのWebインタフェースにあるPowerアイコン)を4秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
- (2) 本体前面の電源スイッチ(または、iLOのWebインタフェースにあるPowerアイコン)を押して、本体装置の電源をオンにして正常に起動する事を確認してください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC Express5800 System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

PCIe Slot の Link Speed 設定について

下記のPCIe SlotについてPCIe Link Speed (*1)を変更してもLink Speedに反映されません。常に最大Link Speedで動作します。

R120j-1M : PCIe Slot 3

R120j-2M : PCIe Slot 4/5/6

(*1) PCIe Link Speed設定メニュー

BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > PCIe Slot X : "Device名" > PCIe Link Speed : 【Auto】 / PCIe Generation 1.0 / PCIe Generation 2.0 / PCIe Generation 3.0

PCIe Slot X : R120j-1MはPCIe Slot 3、R120j-2MはPCIe Slot 4/5/6

"Device名" : 実装されるPCIe Deviceによって表示が変わります。

PCIe Link Speed : デフォルト設定は[Auto]です。設定変更は行わないでください。

実装されるPCIe Deviceによって、選択可能なPCIe Generation 1.0/2.0/3.0は変わります。

将来のシステム ROM で修正される予定です。

3) iLO 6の機能に関する注意事項

iLO の再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間(POST (Power On Self Test)実行中も含みます)は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST (Power On Self Test)実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインタフェース：[Information] - [Overview]ページにおけるUUID、UUID(論理)が不正な表示になる場合があります。

不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- iLO Webインタフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。


iLO のダウングレードポリシー機能の注意事項

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy]の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、iLOに対して永続的な変更が行われるため、『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLOの各種インタフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。

なお、本設定はSet to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定にリセットを行った場合においても、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

iLO のセキュリティ機能の注意事項

iLO Webインタフェースの[Information] - [Security Dashboard]およびiLO Webインタフェース画面の右上  部にリスクが表示される場合があります。

RBSUの設定やiLOの設定の内容によって、iLOセキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 6ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「**iLO Webインタフェースの[ホスト認証が必要]設定における注意事項**」に記載がありますので、ご確認ください。

iLOの負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインタフェース画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

ネットワークブリッジ構成時の iLO Web インタフェースのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成してご使用の場合、iLO Webインタフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。

ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

iLO Web インタフェースの、[ホスト認証が必要]設定における注意事項

[Security] – [Access Setting] – [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定を行う際は、下記のソフトウェアのバージョンを確認するようにしてください。また、条件を満たしていない場合は、対象のソフトウェアのアップデートを行うようにしてください。なお、サーバ診断カルテを導入されている場合は、本設定を『有効』にしないでください。

- ESMPRO/ServerAgentService :
 - Windows版 : バージョン2.52 以上
 - Linux版 : 2.3.4-0 以上
- RAID通報サービス(RRS) :
 - Windows版 : 3.10 Rev 4072 以上
 - Linux版 : 3.10 Rev 4072 以上
- RESTfulインタフェースツール :
 - Windows版 : 5.1.0.0 以上
 - Linux版 : 5.1.0.0 以上
- 装置情報収集ユーティリティ :
 - Windows版 : 3.3.2 以上
 - Linux版 : 2.8.6 以上

上記条件を満たしていない状態で[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定を行った場合、次のサービスや機能をご利用いただけません。

- エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- RAID通報サービス
- サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- iLOが収集するハードウェアに関するデバイス情報、設定情報の参照、イベントログ採取機能

iLO Web インタフェースの Agentless Management Service(AMS)のステータスについて

iLO Webインターフェースの[System Information] – [Summary] – [Subsystem and Devices]のAgentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLOリセットを行ってください。

また、その後、10分程度経過した後、以下のAgentless Management Service (AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

※ Agentless Management Service (AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Webインターフェースの[System Information] – [Storage] や [Network]の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

< Agentless Management Service(AMS)の再起動方法 >

- Windows の場合
Windows の管理ツール → サービス → "Agentless Management Service"を右クリックし、再起動してください。
- Red Hat Enterprise Linux 8.x / 9.x の場合
以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsv restart
```

- ESXi7.0/8.0 の場合

以下のコマンドを実行します。

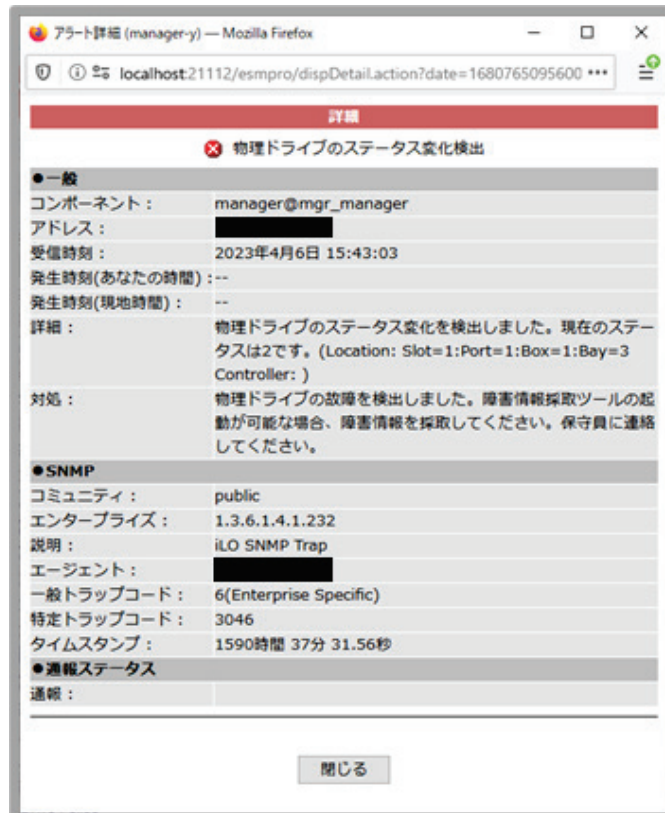
```
# /etc/init.d/amsvd restart
```

通報に関する注意事項について

論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障のエクスプレス通報が通知されません。

また、ESMPRO/ServerManagerアラートビューアにおいて「物理ドライブのステータス変更検出」が通知されますが、仕様変更に伴い詳細欄のステータス値が「3」ではなく、「2」が表示されます。

※ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(Failed)を示します。



4) OS に関する注意事項

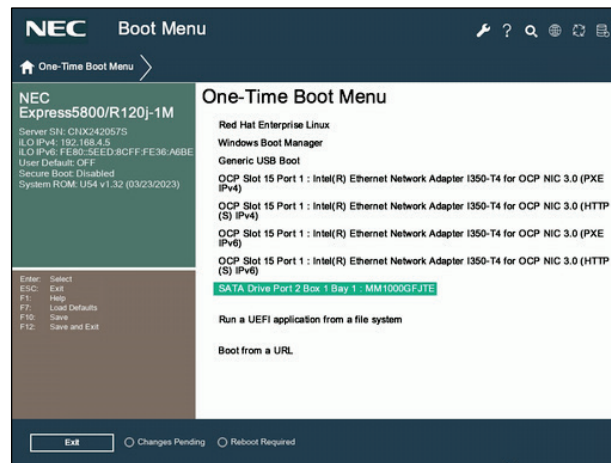
Linux OS を使用する場合の注意事項

OSが自動的に認識するLOMやオプションNICのデバイス名を使用してください。
独自udevルールを追加する際、PCIアドレスを基準にNICデバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。
また、PCIアドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCIアドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCIスロットへのカード増設/抜去、および、CPU構成変更を行わないでください。PCIバスのアドレス情報が変化し、PCI接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

Red Hat Enterprise Linux を使用する場合の注意事項

ワンタイムブートメニューから起動する場合、OSブートマネージャー(例: Red Hat Enterprise Linux)を選択してください。
OSがインストールされたHDDやSSDなどのブートデバイスを選択してもOSブートしない場合があります。



5) 全般の機能に関わる注意事項

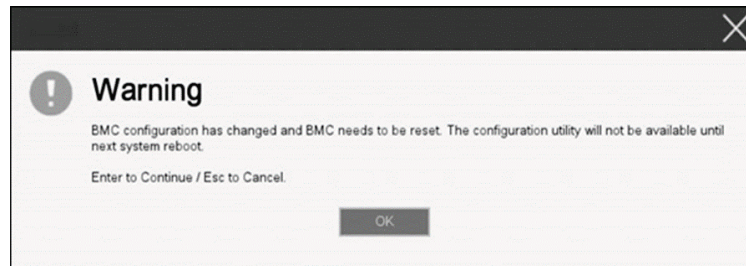
システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

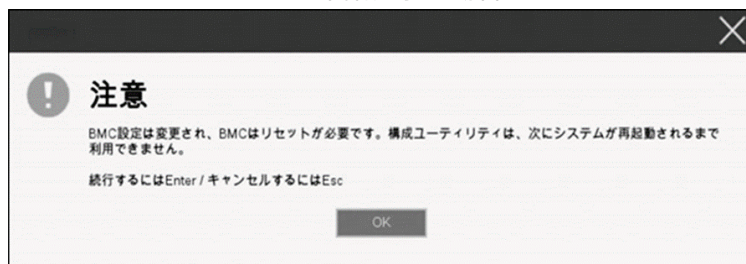
案内の手順に従って操作されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止、あるいは、装置に記録されているSerial Number、Product IDが消失する場合があります。

(1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLOの再起動を行うために、次のWarning (注意)ポップアップが表示されることがあります。

英語表示の場合



日本語表示の場合



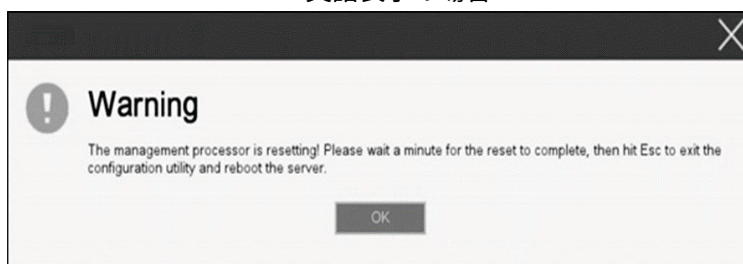
(2) 「OK」を押して進めます。

(3) 次のWarning (注意)ポップアップが表示されます。

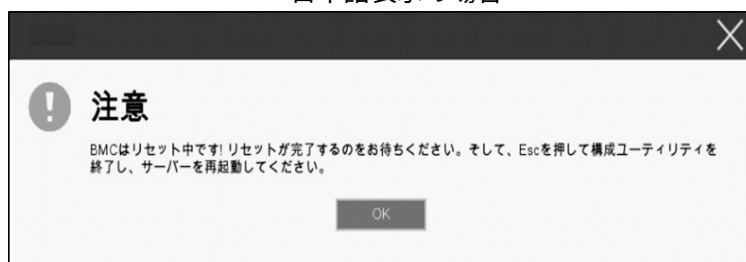
このWarning (注意)ポップアップが表示されている状態にて、必ず1分以上お待ちください。

その間、何も操作しないでください。

英語表示の場合



日本語表示の場合



■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

T E L : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00～12:00 13:00～17:00 月曜日～金曜日(祝日と弊社休日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。



CBZ-065214-001-00

NEC Corporation
2025 年 1 月 第 1 版